

刊夕日八月十

常磐每日新聞

定額一圓五錢
零售五錢
電話六三〇
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

或る日の會話 (一)

眞繼 雲山

凡でも誰だつて春の花野にたゞすめば楽しいでせうし、地獄の釜底に放り込まれたら苦しいでせうに……

佛 さうでも無いさ、我執があるから苦樂を感ずるんぢや、固着を掃ふて無我に住し得ば、苦樂生死といふものは無いテ。三尺の秋水も春風は斬れんからのう。役人共が首になるといふのは斬られる筈の首を持つてゐるからぢや、憫れむべきぢや。寧ろ初めより首なきに如かん。お前のやうな名譽も肩書もない素寒貧は、首に成るといふ心配もあるまいが……あーん。

有り難く思へ。
凡 ウヘエツ……でも、いくら首が無くても地獄へ墜ちたら大變です
佛 分らん、お前は……寒熱の地獄に通ふ茶匙酌も心なければ苦しみも無しで、無念のところ、に苦樂は無いテ、そこが聖位皆空ぢや。それから先は下化衆生で、山を下り里に出れば佛者としての救濟事業があるだけぢや。

凡 さうしますと、佛様には心といふものは有りませんので……

佛 うん、自我に着するといふ心が無い、有るのは慈悲心だけぢや。賽の河原に立つ地藏尊には悲憫の涙がある……

凡 へーエー、その地藏様はどちらにお住居で？
佛 六道能化といふてな地藏、鬼畜修羅、人天を化するが地藏尊の役目ぢや。一に預天賀地藏は天界を化す、二に放光王地藏といふは人界を化す、三に金剛幢地藏といふは修羅道を化す、四に金剛悲地藏といふは畜生道を化す

五に金剛寶地藏といふは餓鬼道を化す、六に金剛願地藏といふは地獄道を化す、六道を化度するといふは中々の大事業ぢやで、さういふに分擔が定めてある。

凡 では觀音様は、何ういふお役目なんですか
佛 矢つぱり六道攝化といふことより外にはない。一に如意輪觀音は天道を度す、二に不空山絹索觀音は人道を度す、三に十一面觀音は修羅道を度す、四に馬頭觀音は地獄道を度す、大体さういふ役割ぢや。そこでよいか、地ごくといふは大變な苦し處ぢやが、聖觀音にせよ、金剛地藏にせよ、地ごくが苦しいといふて逃げ出した話は聞かぬ、衆

初九先生慰問句集 (一)

在滿洲第二師團軍醫部長 龜井盛隆閣下慰問句集

大いなる火蛾の影ある障子かな
火取虫につとなりて座を立ちぬ
窓明けて食る涼や灯取虫
火蛾のかけ大地に太しアーク燈
生きのこる灯取虫うつ晨かな
火蛾落ちて紫檀の卓の白き粉
門内の焚火に群れて灯取虫
縁近く電灯吊りぬ灯取虫
夏虫や溺死に焚ける大かゞり

紅山 鶴堂 青欄 亭二 十符 同茶

生救濟といふこと夫れ自体が菩薩の誓願で、その誓願以外に菩薩といふものは無いのぢやから、菩薩に取つて地ごくが苦しといふ筈は無い。人間共が苦しいといふのは慾の皮が突つ張つてゐるからぢや、他を救濟するといふ犠牲奉仕以外に二念が無いなら世智辛い世の中といへども苦しいといふ法は無い筈ぢや。

江戸前料理 會客

秋の味覺をそる松茸が出廻り
食卓に芳香をはなつて……
松茸料理 始めました
せし一度御試食下さい
出前迅速 錦水
田町(電話四五四)

看護婦急派

の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

醫學博士 名推獎

胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症
肥り度い人の福音 熱くなく痕つかす無煙式 誰にも出来る理想的家庭治療器

器灸温ムウチラ

特卸治 福島縣平町五ノ廿八
約代理 志賀齒科醫院
販理療 福島縣平町白銀町九
賣部部 産婆 關口悦子
定價表 金拾參圓 藥及特効サツ五週分付
金拾圓 藥及特効サツ五週分付
金拾圓 藥及特効サツ五週分付

麻雀開業披露

皆様の御勧めに依り今回左記の所に麻雀を初めました、多数御出でを御待ち申上げて居ります

一、場所 平町新田町湖月前
一、料金 第一位無料 二位五錢
三位十錢 四位十五錢

△初心者の方には無料にて御教へ致します

平和俱樂部

吉田眼科病院

平町屋町、電話六八番
十月五日より七日間
御婚禮花嫁御衣裳特賣

秋冬衣絹綿布大賣出

白生地 特價 紋ニユーネス 一三、五〇
山 二三、五〇
小紋錦紗八圓ヨリ 仙臺平袴金拾圓ヨリ
金波羽織無地七圓五十錢 黒羽重モン付金八圓
村山大島 六圓五十錢 縮緬モン付金八圓
本場銘仙三圓 縮緬 金四圓
銘仙夜具三圓五十錢 高貴織 金四圓

新柄着尺モス二圓九十錢 正花裏地箱入七十錢
三河正紺縞五十八錢ヨリ 綿ネアル白時一丈モノ
紺 八十八錢 ニコノ 八十錢
木綿裏地 四十五錢 瓦斯大島半天地 四十五錢
正紺フトン縞 五十錢

三井吳服店

平町 電話三八四番

平町中心に開かれる

野戦攻防の發火演習

▽ 國家有時の秋に臨む ▽ 郡下千五百青訓生徒 機關銃隊特派さる

石城郡平町近郊を中心とし、同郡下各町村青年訓練所聯合第二回發火大演習は來月十七、八の兩日に亘り華々しく舉行されることになつたが東亞の

風雲急を告げてゐる今日第二師團司令部では之が應援を特派して同師團第二十九聯隊から機關銃隊二箇少隊を出張せしめ三四十臺の機關銃を配置せしめてさながらの模擬戦線を展開せしむる模様であるが前記兩日に亘つて郡下千五百の青訓生が國家有時の秋に臨む

覺悟のもとに野戦攻

本年都合合格者の配置聯隊と入營日

石城郡平町在住者中の今年度甲種合格者の兵科は既報の如く決定したが本日之が配置聯隊及入營日が發表され夫々通達された

- 歩兵二十九聯隊 (若松) 白銀町佐藤二郎、搔樋小路木田三雄、二丁目板橋
- 歩兵七十四聯隊 (成興) 紺屋町瀨谷新平、久保町
- 歩兵一〇二聯隊 (滿洲) 永山一、同沼田秀夫
- 獨立歩兵二聯隊 (滿洲) 芳夫、正月町齊藤警廣、白銀町小林重孝、長橋町菅野淺雄、三丁目柏原英介

秋十

戀占ひわびしく

タイヤの快音と

秋生活の微笑み

ゆふべの豪雨に出水川から濁り流れて、からり霽れた秋空からさんさんと降りそぐ陽の金線は街ゆく人々に眩しくて、我々は天高く氣いよ澄みわたるをおぼえる……

襖障子の影親し
秋の虫もやうやく了へて何がなし部屋のさびしさに氣づくころ、人々は襖や障子をたて入りくる秋の夕風のころよさを知る、部屋のなかに新らしいもの

影が生じて、張りかへられた障子の白さは生活の微笑をおくること……我々は今「自然」の静けさにゐる

夜更けて、カフエー歸りの人足も遠くなり、街の大通りは外燈だけがまた濁き切れない路面の水たまりにしつとり光を落してゐる、快よいタイヤの音を殘して走り去り走り来るタクシーの音に、ふと邪たげられた華胥の國へ街の人々は再び迎へ入るころ——秋の夜はしらりと更たけてゆく

一丁目赤津重美、白銀町澤田長四郎、田町立原道夫

野砲兵第二十五聯隊(羅南)

田町富田雅雄

獨立山砲隊(滿洲)

十五丁目岩崎達雄

工兵第二聯隊(仙臺)

鎌田町吉村榮助、村木町

佐々木五郎、同長谷川惣次郎

鐵道隊(習志野)

立町船山幸次、長橋町近

内勘藏

電信隊(廣島)

紺屋町高木清

飛行隊(立川)

鎌田木村忠雄、六間門丑

湯元三

歩兵三聯隊(麻布)

紺屋町圓谷定一

横須賀(海軍)

南町菊地三郎、月見町根

本弘

△入營期日

△獨立二 野二五は本年

十二月一日△歩二九 獨

山一 工二 鐵一 電一

飛五 歩三は明年一月十

日△歩七四 同六月一日

答へて今宵の戀占ひにひそかなる幸福を捧げる

夜更けてゆくころ

夜更けて、カフエー歸りの人足も遠くなり、街の大通りは外燈だけがまた濁き切れない路面の水たまりにしつとり光を落してゐる、快よいタイヤの音を殘して走り去り走り来るタクシーの音に、ふと邪たげられた華胥の國へ街の人々は再び迎へ入るころ——秋の夜はしらりと更たけてゆく

△横須賀 同六月三十日
草刈部長
選手權獲得
全國大會出場

昨日福島武徳殿に行はれた全國警察官武道大會福島豫選會に出場した平署各選手一行中柔道部の草刈部長三郎氏は福島縣代表選手權を獲得し來る二十三日から全國大會へ出場することになつた

濱三郡
柔道大會
十一日警中で

來る十一日午前十時から石城柔道會では警中道場にて濱三郡昇級審査の柔道大會を開催するが希望者は前日まで警中橋本五段宛に申込まれたいと

磐炭従業員
撲力試合
十一日高坂で

石城郡内郷村磐炭坑では豫てより従業員の體育獎勵の爲め種々な機關を設置しつゝあつたが今回従業員の撲力を奨励し毎日猛練習を行つて居るが來十一日には午前九時同村高坂グラウンドに於いて之が對抗撲力技會を開催すると

劍道會役員協議
石城劍道會では來る十日午後一時から平商業學校において役員會を開き副會長の後任に秋期大會開催の件に

今日話
の題
キツスが危険だといふ研究が多くの
人々によつて發表されてゐるが、感
激の瞬間に取り交はされるキツスで
バックリヤが感染するといふ警告は
そのまゝ受け取る必要がない、尤も
赤ん坊や犬猫にやたらにキツスするのは考へもの
だが、太郎君がお花嬢とキツスする場合は危険は
見逃しても大事ない、若しこのキツスが實際危険
だとすると結婚したかせぬに死んでしまふ夫婦が
澤山なければならぬ管で、そんな馬鹿な話がない
更にこれを突き進めて考へると、英國民は遠の昔
に滅死してゐなければならぬ管だ、といふのは詩
人や史家の述べてゐるところによると、バックリ
ヤがまだ發見されぬ遠い昔から盛んにキツスが行
れてゐるからだ——と英國のジョージ・オールド
フイルト博士が新説を唱へてゐる。

平驛の乗降客
平驛に於ける九月中の乗降客を調査すると乗客五萬一千七百七十人、降客四萬九千九百三十六人、此の金額一萬八千六百二十四圓七九錢であるが昨年同期と比較すると乗客で一萬八千二百四十三人、降客で一萬六千八百六十八人に減じ金額の比較に於いても四千六百三十四圓四十錢の減となり先月は縣議戰等もあつたが自動車の發達の爲め鐵道の運用が少なかつたものであらうと

下附された
大谷師直筆
營會は今回京都本願寺管長大谷光暢師直筆の「十字の名號」の軸を下付され松永良亮師が京都に至り授けられたが東北地方においても「十字の名號」を下付されたのは極少數であると

御免町橋架換
石城郡四ツ倉町警察署前の御免町橋が最近腐朽甚しく相當危険を感じる状態となつたので工費二千圓を投じコンクリートの新橋に架換すべく六日新妻町長から縣當局に陳情した

石城齋取引狀況
△四倉齋市況(十月七日)
(白齋)九二九貫(最高)三圓十七錢(最低)二圓九十一錢(馴)二圓八十九錢

平町人事
□ 出 生
△三丁目二四 齋藤清之氏長男昭一
□ 婚 姻
△石城郡山田村大字下山田瑞澤 渡邊金城(二九) 平町南町四一星アヤ(二五)

□ 死 亡
△立町八五 當時村郡小野新町八反 佐藤寛(四二)

小娘が服毒の原因は 月に一度の生理異常

學業は中位以上であつたが 今迄も屢々常識外れの行爲

十五の小娘が服毒自殺を圖つた昨報の石城郡内郷村大字町田吉五郎長女同村高坂尋常高等小學校高等科二年生末長ヨシ(一七)は其後醫師や家人の手厚い

看護に依つて一命は取り止めたらしいが何んの爲めに此の小娘を斯くおらしめたかの原因に就いては種々の風評が傳えられて居る、本社の探問する處に依ると夫れが

婦女の 大きな負擔で

ある月經時の精神激動に基くものである事が明らかになつた、ヨシは學校の成績も中位以上で健康も決して人に劣つて居ないが本年春頃から女道に入つて月のものを見る様になつた、然もヨシは月經時に屢々精神錯亂の状態に陥りあらぬ事を口走る様な場合も少くないので受持教員も夫れとなく

注意を 加へて居たのであるが去月の如きは夜更に及んで單身學校に赴き寝についた宿直員の枕元に座り込んで辻つまの合はぬ奇矯なる言を發する爲め小使をして自宅に送り届け其後數日を経て此事を聞くや何等の覺えがないと平氣

學友等 の面前にて、

一軀の工合が悪いから薬を嘔むんだ」と仰り間もなく顔色蒼然と變り苦悶を始めたので集つて居た生徒等が大騒ぎを始めたのである

親達へ注意

木村醫師談

尙ほ右に關し月經時の異常に就いて平町婦人科醫木村寅次郎氏の談を聞けば左記の如くである

私は未だ且つて月經時の精神異常を來した婦人を實際に手がけた事はありませんが、健康体のものであつても此時には多少の異常はあるもので物事に激動し易くなり妙に怒りつぽいヒステリー性を現はすものです、勿論其の發作は體質に依つて各々異つて居りますがよく新聞の社會面を賑す婦人の萬引等は此の月經期に於ける精神異常の現れである場合が多いのです、健康体でありまた氣持ちがシツカリして居ります

若しそれを怠り生理的に導いてやらぬと其際の不攝生や精神激動に依つて一生を棒に振る様な不幸を招く場合が多くあります。

職工休業問題

一先づ解決

今日日中就業

昨報石城郡赤井村磐城耐火煉瓦工場従業員十三名が突如廢業を申合はせ一齊退場した事件に就き經營者側では種々對策を講じつゝあつたが昨夜同村樫村周次郎氏を見付けた者以外は今明日中から従來通り就業することになつて解決した模様である

視力保護デー

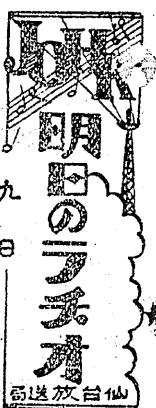
町民に眼の衛生を徹底

来る十日に初めの催し

平警察署では来る十日縣下で最初の催である視力保護デー當日一般町民の保健殊に眼の衛生を徹底せしめる爲め町衛生課及衛生區主任と連絡をとりポスターパンフレット等を以て大々的に宣傳を行ふが此が具体案を本日午後一時より平署會議室に行はれる衛生主任會議の席上で協議すると

自動車新標札

福島縣自動車協會平支部では現在各自動車使用しつゝある標札(ナンバー)が破損腐蝕



明日の天気
今夜は北東の風
晴れ明日は北西の風秋晴れ

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間)「寶珠の關所」放送指揮石川季夫
後六、三〇 英語講座「中等科」第二講の五、エラ、イエル
後七、三〇 講演「南嶺寛城子に於ける歩兵第四聯隊の行動に就て」中村謙二
後八、〇〇 祭禮囃子「矢車」其他 福島縣白河町

明日の部

青年
後八、三〇 新内一若木仇名草「富士松鶴太夫他」
後九、〇〇 浪花節「太閤間達ひの婚禮」木村友忠
後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告 生蘭相場

旅費願ひの

阿片中毒者

平町役場へ

本日午前九時頃平町役場へ旅費貸與方を願出た一名の

梨泥棒の余罪

居住村内を荒し廻り

被害者は廣範の模様

石城郡赤井村仙臺炭礦坑夫山後初太郎(一七)は去る四日午後七時頃同村畑子澤地内矢野金市所有の梨畑から四貫匁余の梨を窃取して其筋に捕はれ平署にて余罪取調中であつたが同人はこれまで同村内各所に互り手當り次第に荒し廻つてゐた事が判明し平署員も意外のゴッ

(二) 庄司洗豊
後〇、〇五 マンドリン獨奏「第二前奏曲」其他
鈴木静一
後二、〇〇 家庭大學講座「常識の映畫」第二講
森岩雄
後二、二五 運動競技「野球リーグ戦」
後六、〇〇(子供の時間)
「伊達政宗公」中西利徳
後六、三〇 英語講座「初等科」(一)岡倉由三郎
後七、三五 副業講座「農村副業の實際に就て」二
征岡高幸
後八、〇〇 俚諺「もんき胸搦唄」其他 佐藤久右衛門其他
後八、三〇 放送歌劇「あやめ」日本放送交響樂團

荷滿載の

トラック大破

田浦に横倒し

石城郡内郷村字涌井自動車店運轉手涌井二郎(一七)は七日午後二時頃トラックに荷を滿載して石城郡大浦村字畑谷地内國道を平町に向けて疾走中前方より來た荷馬車を避んとして傍の電柱に衝突同電柱をヘン折つて機關部を大破し横倒となつて田浦へ轉落したが幸ひ運轉手には異常なかつた

時計眼鏡

トキワヤ
平一電三三九

小説 七五郎

(五十五)

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

【載轉禁】

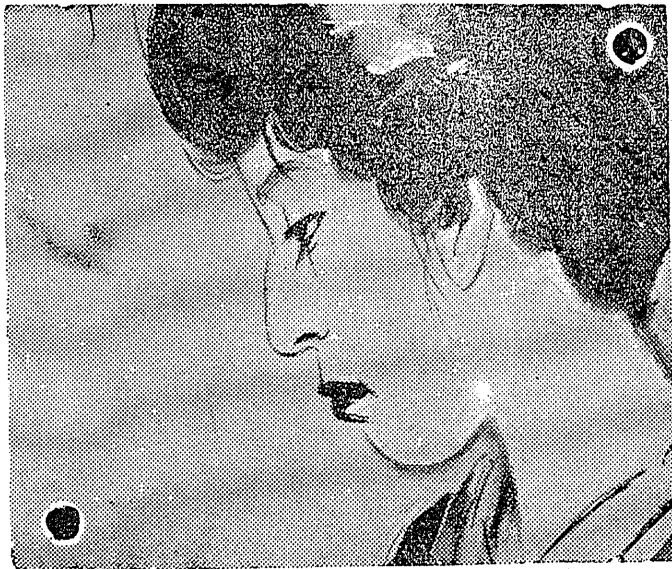
影法師 (4)

『ぢや、いつもの持病だわあの人。あんな體格をしてゐる癖に、よくよく意志が薄弱なんだから困つちまうのよ。一時的のものなら直に快くなるでせう。』
あれほどに千代子や清作親子を心配させた平兵衛の病氣は、郁子や高木などの口の上にとまるで隣人の噂のやうに冷たく取扱はれるのであつた、わづかに二三分間でその話が切揚げられると、郁子は不圖憶ひ出したやうに。

『それからあのノロさんは如何したこと歸つて来て。』と尋ねた。十文字家の人たちのうちで源之助の居處を知つてゐる者は、川島支配人と郁子とそれから此の高木の三人限だつたのである。しかも郁子は蔭で源之助を呼ぶのにノロノロさんといふ綽名を用ゐるほど夫程彼を侮り切つてゐた。
『若旦那ですか、いゝえ。歸るどころの沙汰ですか、貴女、相變らず彼處に沈没したつさり、まるで日向に曝したアネリもよろしくトロ／＼になつてゐます。あの分ぢやまづ當分はどんな起重機を持つていつて』

底浮揚がる見込はまづ大丈夫當分はありませぬな。』
『然う、困つた人ね。』
『實は今日も金を持つて來い來いとうるさく電話で言つて寄越すもんですから、川島さんに相談して少しばかりあてがつて來てやりました。』

見込がないから今度はすつぱり斷つてやつた方がいゝよ。』
『へえ、それですから今日クサビをボンと一本打つて來てやつたんでもう是で縁切でせう。』
『あの人を此邊に置いちや駄目よ、どツか遠くへ……』
『うね、支那か南洋あたりへやつて了うといふわ、今日の騒ぎがいゝ機會なんだから一ツ整理がつくまで姿を隠してゐた方が都合がいゝから、とさう言ひ聞かしてね、よく歸つたら川島とよく相談して御覽よ、屹度その方がいゝよ。』



『如何程持つてやつたの。』
『何に、五百圓だけです。』
『際限がないから今度ツからびつたり斷つてお了ひよそんな道樂の入費までも背負はされちや家こそいゝ面の皮ぢやないの、あんなノロにいくらやつたつて末の』

『畏まりました、ぢや奥さん、御來客中、あまり長居をしても、お邪魔でせうから。』
『え、何だつて……。』
『いゝ子はぎくつとした様子で問ひ返し……。』
『いや、實は來客を……。』

の何でございます。明早朝に逢うことに約束をしてありますので、あまり遅くなりましては何ですから、是で失禮をいたします。』
『御苦勞さまたつたわね。川島へ宜しく。』
『へ、へ、申聞けます、どうぞ其儘。』
びよこ／＼お辭儀をして引下つた高野は、玄關を出てから直と表門側の小舎に立寄つた。
其處には番人の傳兵衛夫婦がまだ起きてゐて爐邊でこより夜業をやつてゐた。高野は沓脱のところを腰を掛け、一通りの挨拶を済ましてから小聲になつて
『時にお婆さん、ちちつとお聞きするがな、今晚離房に來てゐるお客はどなただか、最うお前さんにやアよく分つてらうな。』

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 胃性病

林病 十二指 腸虫病

村松 町南平

院醫科腸病電話七〇一

徳信堂 徳信堂 徳信堂

徳信堂 徳信堂 徳信堂

徳信堂 徳信堂 徳信堂

美味! 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

配 平町三丁目

大勝園 鈴木義志

本場銘茶の優良品を一段と品質を向上致しまして英斷的値下致しました、何卒御試飲下さいませ

煎茶四十目袋入 十錢より 五十錢まで

香りのよい家庭徳用別焙

ほうじ茶四十目袋入 十五錢 第二號十錢

貸切の●●● 御用命は?!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

木村外科醫院

花柳病 専門

入院自炊の便あり 電話一〇番

科人婦・科産

院醫坂井

町田町平 番九五五話電

正確ニガネ

無料検眼

各眼科院御用

時本根